

## 第1学年 算数科学習指導案

児童 2組 男子10名 女子10名 計20名  
指導者 加藤 浩子

## 1 単元名 たしざん

## 2 単元について

## (1) 教材について

本単元は、学習指導要領第1学年の内容A(2)「加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。」に基づいて設定されている。本単元で扱う1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方について、加法が用いられる場合や加法の意味について理解する。また、計算の仕方を考えて説明ができるようにし、その計算が確実にできるようにするとともに、日常生活や学習の中で活用できることをねらいとしている。

本単元では、半具体物を使った操作によって、被加数か加数のどちらかの数に着目し「10のまとまり」をつくり、「10といくつ」と考える計算の仕方を、筋道立てて説明していくことができるようにしていく。いずれの計算も、これからの加法計算の基礎となる重要な内容である。

## (2) 児童について

児童は、素直で、やるべきことについて一生懸命に取り組んでいる。これまで学習してきた和が10以内の加法や、被減数が10以内の減法の計算は、念頭で答えを求めることができる児童が多くなっているが、時間がかかり間違いが見られる児童も数名いる。

レディネステストの結果をみると、数の合成・分解について、6は2と□や、10は7と□の正答率が60%と低く、数の構成の理解が不足していることが分かった。未習の $9+3$ の答えの正答率は75%だった。

授業の中に伝え合いの場を取り入れているが、一斉での伝え合いは、進んで考えを発表することができる児童がいる反面、自信がなかったり消極的だったりして発表することができない児童も数名いる。みんなの前では発表することができない児童も、ペアの形態では、簡単ではあるが自分のやり方や考えを伝えることができるようになってきた。

## (3) 指導にあたって

本単元の導入では、既習のたし算や未習のたし算を取り上げ、見通しを持って学習に入ることができるようにしたい。本単元は、被加数か加数のどちらかの数に着目し「10のまとまり」をつくり、「10といくつ」と考えて答えを求めることがポイントである。加数分解では被加数の10に対する補数の見つけ方をどのようにすればよいのかを、ブロックや言葉を手がかりとして考えさせた。さらにどうやって「10のまとまり」をつくるのか、ブロック操作を通して考えさせ、言葉や図・さくらんぼ計算で表現させる。その後、被加数分解を取り上げ、被加数を分解する方法があることに気づかせる。被加数分解、加数分解どちらの計算のしかたでも、答えは同じになることを確認した上で、児童が考えやすい方法で計算させる。繰り上がりのある加法計算の練習では、計算カードを使ったいろいろなゲームを行い、楽しく活動させながら習熟を図っていききたい。

伝え合いでは、ペアの形態を多く取り入れ、自分の考えを話したり相手の考えを聞いたりし、どの児童も授業に参加することができるようにする。順序を表す言葉を使わせ、筋道立てて整理しながら話すことができるようにしていきたい。

### 3 単元の目標

○ 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考え理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いることができるようにする。

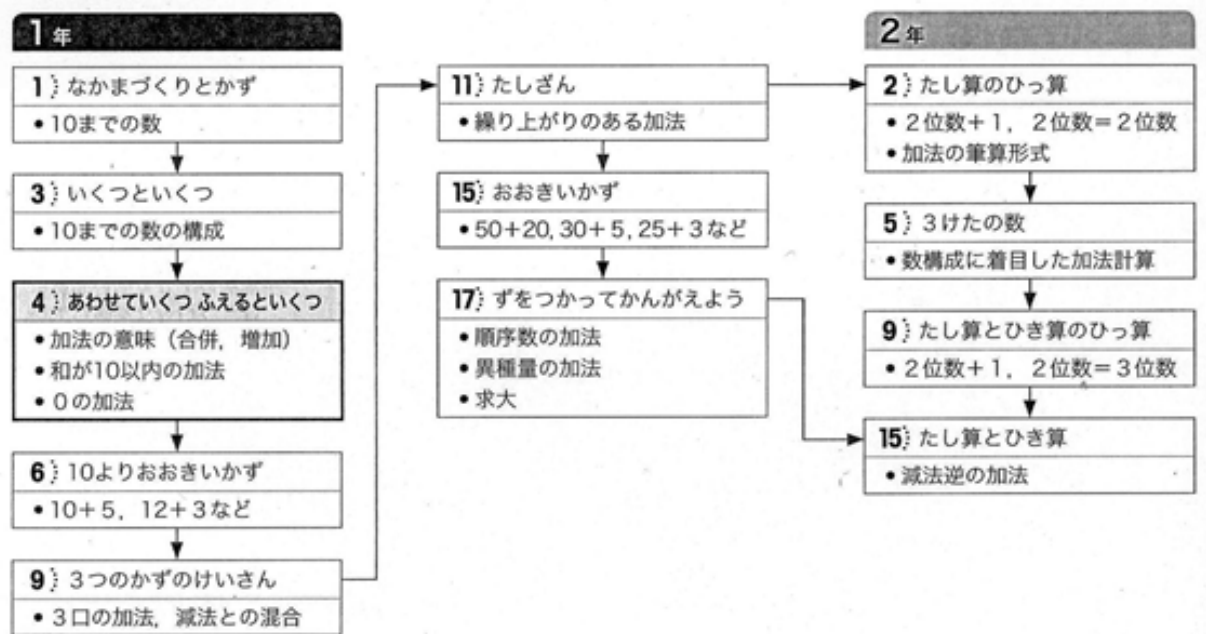
【関心・意欲・態度】 ・既習の加減計算や数の構成を基に、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考えようとしている。

【数学的な考え方】 ・1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて表現したり工夫したりすることができる。

【技能】 ・1位数どうしの繰り上がりのある加法計算が確実にできる。

【知識・理解】 ・10のまとまりに着目することで、繰り上がりのある加法計算ができることを理解する。

### 4 指導内容の関連と発展



### 5 指導計画・評価計画 (全13時間)

時	目 標	おもな評価規準
第1次 9 + 4のけいさん・・・5時間		
1 本 時	○ 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で加数を分解して計算する方法 (加数分解) を理解する。	【関】 既習の加減計算や数の構成を基に、9 + 4などの計算の仕方を考えようとしている。 【考】 9 + 4などの計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて説明することができる。
2		
3 4 5	○ 前時までの学習をふまえ、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法の理解を確実にする。	【技】 加数分解による計算が確実にできる。 【知】 被加数が8～5の場合でも、10のまとまりをつくれればよいことを理解している。
第2次 3 + 9のけいさん・・・2時間		
第3次 かあどれんしゅう・・・5時間		
まとめ・・・1時間		

6 本時の指導

(1) 目標 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法（加数分解）を理解する。

(2) 具体の評価規準

評価の観点	おおむね満足できる	努力を要する児童への手立て
【関心・意欲・態度】 既習の加減計算や数の構成を基に、 $9 + 4$ の計算のしかたを考えようとしている。	1位数どうしの繰り上がりのある計算の仕方を、ブロックをもちいて考えようとしている。	ブロックケースの空いている部分に10のまとまりをつくって考えるように助言する。
【数学的な考え方】 $9 + 4$ の計算の仕方を考え、ブロックや言葉などを用いて説明することができる。	あといくつで10になるか考え、10のまとまりをつくり、 $9 + 4$ の計算の仕方をペアや全体の場で話している。	ブロックケースの空いている部分に着目させ、10のまとまりをつくるために何個動かせばよいか、10といくつになるか、考えさせる。

(3) 研究内容に関わって

ア 問題提示の吟味

繰り上がりのあるたし算の導入にあたって、カードを使って、和が10以下の加法や10と1位数の加法の振り返りを行う。出された式を仲間分けし、既習と未習を確かめ、今後の学習を見通しをもって行うことができるようにする。また、具体物(まつぼっくり)を提示し、児童が興味をもって学習に入ることができるようにしたい。

ウ 考えのよさを共有させる(伝え合い) 指導の手立て

自力解決した後、一斉の形態で $9 + 4$ の計算の仕方について話し合い、共通理解させる。「10のまとまりをつくるためにどうするか」「なぜそうするのか」など、視点を与えて考えさせ、深めていきたい。

(4) 展開

段階	学習内容と活動	・支援(◆伝え合いへの支援)と評価◎
つ か む  10 分	1 問題を把握する。 ○カードを使って、たし算の振り返りをする。  ○問題をつかむ。 ゆかさんはまつぼっくりを9こ、ひろしさんは、4こひろいました。あわせてなんこひろいましたか。  ○立式し、そのわけを伝え合う。 しき $9 + 4$  ○ばらに置いたブロックで数える。	・既習、未習のたしざんカードを提示し、振り返りを行うとともに、仲間わけをすることにより既習と未習を確認する。 ・まつぼっくりと問題文を結びつけて問題を提示する。  ◆ペア(自信をつける・考えを整理する) ・式と立式のわけを話させる。  ・10より多くなりそうだという見通しをもつ。 ・数えると答えが13になることを確かめる。

	<p>2 学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>9 + 4 のけいさんのしかたをかんがえよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつも数えるのは大変なことを実感させ、1こずつ数えないで、答えを求める方法を考えていくことを確認する。</li> </ul>
<p>考える 10分</p>	<p>3 見通しをもち、自力解決する。</p> <p>○ブロックを9と4に並べて、1こずつ数えなくても、答えがわかる方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10のまとまりをつくる。</li> <li>・9に1をたして10。</li> <li>・10と3で13。</li> </ul> <p style="text-align: center;">10のまとまり</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>□□□□□□□□◀■ ■■■■</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10のまとまりをつくとわかりやすそうだという見通しをもたせる。</li> <li>・ブロック操作で答えを求めた児童は、どのようにブロックを動かしたかがわかるようにワークシートに図でかかせる。</li> <li>◆ペア（自分の考えを整理する・友達の考えと比べる）自分が考えたやり方を話させる。</li> <li>◎【関】1位数どうしの繰り上がりのある計算の仕方を、ブロックをもちいて考えようとしている。（観察・ワークシート）</li> </ul>
<p>深める 15分</p>	<p>4 考えを伝え合い、話し合う。</p> <p>○ブロック操作をしながら、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10のまとまりをつくと分かりやすい。</li> <li>・9はあと1で10。</li> <li>・4から1もってくる。。</li> <li>・10と3で13。</li> </ul> <p>○図をかいて発表する。</p> <p>○ブロックと図を比べる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>◆一斉（みんなで考えを共通理解し、深める。）</p> <p>出された解決方法について、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 10のまとまりをつくるよさ</li> <li>② あといくつで10になるのか</li> <li>③ 10のまとまりをつくるためにどうするか</li> <li>④ どうして1をもってくるか。</li> </ol> <p>について、視点を与えて話し合わせ、9 + 4の計算の仕方が理解できるようにする。</p> <p style="text-align: right;">内容ウ</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロックでも図でも10のまとまりをつくっていることを確認する。</li> </ul>
<p>まとめる 5分</p>	<p>5 学習のまとめをする。</p> <p>○9 + 4の計算の仕方をブロック操作をしながら確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>10のまとまりをつくってけいさんする。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで声に出してブロック操作をさせる。</li> <li>◎【考】あといくつで10になるか考え、10のまとまりをつくり、9 + 4の計算の仕方をペアや全体の場で話している。（観察・発表）</li> </ul>
<p>ひろげる 5分</p>	<p>6 学習を振り返る。</p> <p>○本時の学習を板書を見ながら振り返る。</p> <p>○自己評価をする。</p> <p>○感想を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かったこと、楽しかったことを発表させ、次時への意欲につなげる。</li> </ul>

(5) 板書計画

絵	(か)	9 + 4 のけいさんのしかた	(ま)	10 のまとまりをつくって けいさんする。
ゆかさんはまつぼっくりを9こ、 ひろしさんは4こひろいました。 あわせてなんこひろいましたか。				10 のまとまりをつくる 9 はあと1で10 4 から1を9にもってくる 10 と3で13
しき     9 + 4 = 13 こたえ   13こ		ブロック		ず
		10 のまとまり		10 のまとまり
		□□□□□□□□←■ ■■■		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ←● ○ ○ ○

3 + 2	10 + 4	7 + 8
5 + 3	10 + 3	5 + 9
6 + 2	10 + 2	9 + 4
1 + 5		3 + 9